活動レポート

日本技術士会北海道本部
事業委員会

文責：事業委員会　**原田　哲郎**

事業委員会主催

技術研修会（日帰りコース）報告

1. はじめに

2019 年末からのコロナウイルスの影響により中止となっていた事業委員会主催の技術研修会（日帰りコース）を 2 年ぶりに以下の要領で開催した。

技術研修会の主な見学内容について報告する。

○日時：令和 4 年 7 月 29 日（金）
12：50 ～ 18：00

○見学先：夕張市石炭博物館

○参加人数：15 人

○懇親会：なし

2. 概要

(1)　炭鉄港の概要

北海道は、明治初期から昭和の高度成長期までの 100 年で実に人口が 100 倍となる急成長を遂げた。この成長の基は、三都（空知・室蘭・小樽）における「炭鉄港（たんてつこう）」（石炭・鉄道・鉄鋼・港湾）の開発であった。その後、炭鉱は石油との競争にさらされて撤退局面を迎え、室蘭・小樽は港湾機能が衰退した。また不幸な炭鉱事故も重なって暗いイメージがつきまとうこととなり、炭鉄港の記憶は顧みられることがなくなっていた。

ここにきて、100 年後の日本の人口は、高度成長期前の明治初期の頃の水準まで減少すると予測されている。国策により発展を遂げ、さらに衰退の道を歩んだ炭鉄港は、今後の日本が直面するであろう「既におきた未来」の教訓として学ぶことが多い。

(2)　夕張市石炭博物館の概要

石炭の歴史村の整備に合わせてその中核施設として 1980 年（昭和 55 年）に開館した。夕張市の財政破綻をもとに一時閉館の期間もあったが、旧北炭夕張炭鉱天竜坑を利用した採炭現場の動態展示など石炭産業関連としては世界でも有数の博物館であり、炭鉄港に関する地道でたゆまぬ活動により、炭鉱文化と再生への街の歩みを発信する重要施設として現在の運営に至る。

■位置：夕張市高松 7 番地

■開館時間

9 月まで　　10：00 ～ 17：00

10 月以降　　10：00 ～ 16：00

■休館日：火曜日、冬期（11 月上旬～ 4 月下旬）

※ GW・お盆・祝日は火曜日も開館

【1960（昭和 35）年の博物館周辺の様子】

【夕張市石炭博物館（現在）】

3. 見学内容

(1) ツアー説明

札幌より夕張市の夕張市石炭博物館までは貸切バスにて移動した。博物館の見学に先立ち、夕張市石炭博物館吉岡館長より炭鉄港の興味深いお話をいただいた。吉岡館長には、令和 2 年、日本技術士会北海道本部にて開催した第 17 回技術フォーラムにおいて、「北海道・日本を変えた炭鉄港」として講演いただいた。それを受けての現地視察が今回の日帰りツアーとなった。

【吉岡館長による事業説明】

(2) 夕張市石炭博物館視察

石炭の樹：メタセコイア

夕張の石炭は約 5,000 万年前、メタセコイアが川底の地層の中に埋もれ、高い温度と圧力によって生成されたと考えられている。世界の石炭は約 1 億年以上かけて石炭となったとされており、実に 2 倍以上の速さで生成されたフレッシュな石炭である。

【現在でも生育するメタセコイアを前に説明】

地下展示室

炭鉱の技術の推移、作業の様子、様々な鉱山機械・器具などを、数多く展示している。

【地下展示室の様子】

ドラムカッター

地下展示室には実際に使われていたドラムカッターの実演運転を定期的に実施しており、その運転状況を観察することができる。

【ドラムカッター（実物）運転の様子】

4. おわりに

コロナ禍ではあるが、感染対策を徹底し日帰りツアーを実施できた。

【石炭の大露頭をバックに全体集合写真】